発刊のごあいさつ

社会福祉法人大阪市社会福祉協議会
会長　乾　　繁　夫

大阪市社会福祉協議会は、社会福祉事業法の施行に伴い、昭和26年5月に法人認可され、法人設立当初から一貫して、住民参加による地域福祉の実現をめざし、地域福祉活動の推進に取り組んでまいりました。

このたび、設立60周年を迎え、「大阪市社会福祉協議会設立60周年記念誌」を発刊いたしました。

60年に及ぶ歴史を重ねてこられましたのも、ひとえに、歴代会長様をはじめ、役職員並びに関係各位の皆様方の積極的な活動の賜と、そのご努力とご功績に対し、深く敬意と感謝を申しあげます。

さて、本会は、法人設立以来、ボランティアの育成や地域福祉施設の運営、在宅福祉サービス活動の展開、各区社協の法人化、ボランティアビューローの設置・促進、区・小地域における活動基盤の確立と福祉活動への支援等に取り組んでまいりました。

とりわけ、この10年余においては、平成12年の社会福祉法の成立や介護保険法・障害者自立支援法の施行など、法制度が大きく変わり、福祉課題が山積するなかで、区社協事業の拡充や小地域ネットワーク活動の推進、あんしんさぽーと事業（日常生活自立支援事業）の推進や地域包括支援センターの運営をはじめ、ボランティア情報センター、社会福祉研修・情報センター、子育ていろいろ相談センター等の基幹施設においても多様な事業を展開してきたところです。

平成16年3月に、市が「大阪市地域福祉計画」を、市社協が「大阪市地域福祉活動計画」を策定し、各区において、地域・施設・団体・社協・行政等が一体となって、アクションプランの策定・推進に取り組んでまいりましたが、アクションプランの取り組みや食事サービス、ふれあい喫茶、見守り活動などの地域活動が継続して展開されていることが、人と人とのつながりを深め、地域の福祉力アップに寄与しているものと思います。

市政改革の影響もあり、最近の本会を取り巻く状況は非常に厳しいものではありますが、設立60周年を迎え、より一層地域福祉の推進役としての役割を果たすべく、「一人ひとりの人権が尊重され、誰もが自分らしく安心して暮らすことができるやさしさとぬくもりのある福祉によるまちづくり」の実現をめざして、さらに取り組みを進めてまいりたいと存じますので、大阪市をはじめ、区社会福祉協議会、社会福祉関係機関、施設・団体、民生委員児童委員、ボランティア、ＮＰＯ、そして地域の皆様方におかれましては、引き続き、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申しあげます。

なお、本誌発刊につきまして、各方面よりご指導、ご協力をいただきましたことに厚くお礼を申しあげ、発刊にあたりましてのあいさつといたします。

大阪市社協への期待

大阪府立大学名誉教授　右　田　紀久恵

大阪市社会福祉協議会は、まさに歴史的エポックともいえる転換期に、60周年を迎えた。市場原理の導入と相まって「福祉とは何か」が問われ、「地域福祉の主流化」が強調されたりもしている。

いまここで基本的に問われるべきは、真の地方自治の構築とそこでの社会福祉の役割であろう。福祉の側から団体自治や住民自治を自らの課題として問い、転換期を新たな質をもった生活の場と地方自治構築のチャンスとして活かし、「新生」の途を拓く“魁”としての役割が期待される。

2000年以降の社会福祉基礎構造改革をうけて、大阪市・大阪市社協ともに、地域福祉計画・アクションプラン・福祉人材養成等々にとりくんでいる。これらが市民（住民）の連帯・協働・ネットワークによる持続可能な社会づくりのレベルをこえ、地方自治構築を課題とすべきであろう。つまり、「自ら治まる」から「自ら治める」への変革である。

エポックとしての転換期は必ずしも時代のはじまりとは限られず、「新生」と「破局」のあることを、これまでの歴史が示している。「破局」ではなく「新生」の途にハンドルを切るためには、住民・社協・行政が共に“転換期を生きている”という認識と主体性の確立が求められる。転換期の結末を「新生」の途とするために、主体的変革が不可欠である。

また、エポックとしての転換期には、“歴史をかえりみない者は現在にも無知であり、未来を展望できない”という名言を反芻してもしすぎることはないといえる。

誇るべき大阪の社会福祉実践と先達の残した貴重な遺産から、転換期を「新生」とするための羅針盤を見出すべきであろう。

たとえば、都市福祉のパイオニアとしての志賀志那人は、今日よりも厳しい財政状況下で多くの貴重な遺産を残している。それらは、理論、実践いずれの面においても今日に通じる斬新さと普遍性をもっている。岡村理論よりはるか以前に志賀は住民を主体ととらえ、その主体力を自治・公私協働と組織化につなぐ実践論を展開している。まさに、地域福祉の原理を明示しているのである（「志賀志那人思想と実践」　和泉書院　2006年）。

地域と地方自治にこだわり、その具体的手法や原理を、かけがえのない先達の遺産から学び、継承し、大阪の誇りとして根づかせてゆくことなしに、「地域福祉の主流化」は言葉だけのものとなったり、根なし草として転換期の結末を迎えないとは限らないと考えるのは杞憂であろうか。

転換期における社協にとっての羅針盤は国によって示されるものではなく、地に足をつけた主体者が主体的に創る努力の結晶そのものであり、社会的財産（social goods）にほかならない。明日からの大阪市社協の歩みに、期待するところ大である。

大阪市社会福祉協議会　歴代会長

初代会長

坂間　棟治

昭和26年10月～昭和40年６月

第２代会長

廣瀬　楢治

昭和40年６月～昭和44年６月

第３代会長

駒井　信義

昭和44年６月～平成17年５月

第４代会長

小林　俊壹

平成17年５月～平成21年10月

第５代現会長

乾　　繁夫

平成21年10月～12月(職務代理者)
平成21年12月～現在

60周年記念事業

設立60周年記念 大阪市社会福祉大会
［平成23(2011)年10月］

乾繁夫会長のあいさつ

記念コンサート

東日本大震災
報道写真ギャラリー

シンポジウムに
約200人参加

東日本大震災シンポジウム

記念講演する大橋謙策氏

設立60周年記念講演会
［平成23(2011)年10月］

えほん展
いろいろ
［平成23(2011)年11月］

60年前の絵本や
写真集を展示

自由なスタイルで
絵本を楽しむ

絵本作家　長谷川義史さんのライブ

地域の食事サービスを
視察・交流

社会福祉研修・
情報センターを訪問

大阪市・シカゴ市
社会事業従事者
研修・交流プログラム
［平成23(2011)年10月］

社会福祉施設を
視察・交流

国際交流センターにて
ワークショップ

大阪市社会福祉研修・情報センター
「キャラバン・メイトフォローアップ研修」
［平成23(2011)年１月］

キャラバンメイト養成講座
［平成21(2009)年７月］

子育ていろいろ相談センター「地域子育てシンポジウム」
［平成17(2005)年９月］

大阪市成年後見支援センター
「市民後見人養成講座」
［平成23(2011)年９月］

障害者週間
［平成19(2007)年12月］

大阪市ボランティア情報センター
「市民フォーラムおおさかファイナルステージ」
［平成21(2009)年１月］

老人福祉センター「健康いきいき教室」
［平成20(2008)年８月］

子ども子育てプラザ「親子でヨガ」
［平成19(2007)年４月］

アクションプランの推進支援

西成区・バルーンアート活動を通じたアクションプランの啓発等
［平成23(2011)年８月］

［平成17(2005)年11月］

住民座談会

［平成17(2005)年７月］

平野区「おとなの学校プロジェクト」
［平成21(2009)年３月］

阿倍野区「あべの♡愛博覧会」［平成21(2009)年９月］

福島区「駄菓子屋さんが来るで」
［平成19(2007)年３月］

福島区「マンションde子育て」
［平成19(2007)年３月］

生野区「アクションプランフェスタ」
［平成22(2010)年２月］

此花区「ウォールペインティング」
［平成19(2007)年９月］

西淀川区「アクションプラン塾開講式」
［平成21(2009)年８月］

地域福祉
アクションプラン推進大会
［平成20(2008)年２月］

旭区「安心・安全なまちづくりをすすめよう」
［平成19(2007)年２月］

淀川区「Do！ほっこり市」［平成19(2007)年８月］

広報・啓発資料

大阪の社会福祉
平成24年３月号

ウェルおおさか 2012年３月号

ともに育つ子どもとおとなの応援誌
いろいろ2012春号

COMVO 2012年３月号

市民フォーラムおおさか2011報告書

高齢者食事サービス事業

DVDビデオ
大阪市成年後見支援センターと
市民後見人の活動
「成年後見の新たな担い手・市民後見人」

大阪における社会福祉の歴史Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・
大阪における社会福祉の歴史特別号
「大阪社会事業ボランティア協会の軌跡」

人気の手作りメニュー
～高齢者食事サービスレシピ集～